

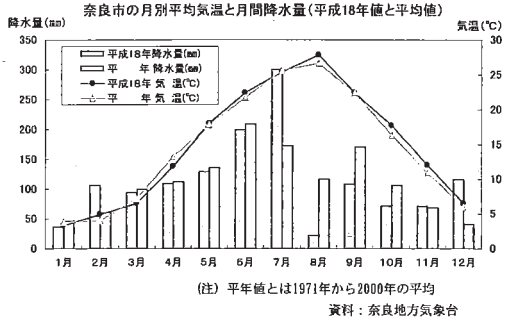
【概 況】

【平成18年の気象の特徴】

- ・1月上旬は極端な低温、1月中旬以降は寒暖の変動が大きかった。2月は多雨。
- ・春は低温と寡照。4月は低温と極端な寡照。5月は極端な寡照。
- ・梅雨入り(6月8日頃)は平年より遅く、梅雨明け(7月27日頃)は平年より遅く、梅雨期間の降水量は平年より多かった。
- ・夏は高温。7月は多雨と極端な寡照。
- ・秋は高温。9月は少雨と多照。10月は高温。11月は高温。
- ・初冬は極端な多雨と多照。
- ・平成18年の台風の発生数は23個で、平年(26.7個)より少なかった。一方、日本に上陸した数は2個で、平年(2.6個)並みであった。また、日本に接近した数は10個で、平年(10.8個)並みであった。なお、接近数の内訳は、本土3個(平年は5.2個)、南西諸島に6個(平年は7.2個)であった。

【月別の気象概況】

- 1月：冬型の気圧配置となることが多く、平年に比べ気温の低い日が多かった。
- 2月：上旬は冬型の気圧配置となる日が多かった。中旬以降は低気圧や前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多かった。なお、近畿地方では春一番は観測されなかった。
- 3月：天気は周期的に変化し、気温の変動が大きかった。なお、29日には、桜(ソメイヨシノ)が開花(平年より3日早い、昨年より4日早い)した。
- 4月：低気圧や前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多く、後半は平年に比べ気温の低い日が多かった。なお、5日には、桜(ソメイヨシノ)が満開(平年より1日早い、昨年より2日早い)となった。
- 5月：中旬を中心に低気圧や前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多かった。
- 6月：天気は周期的に変化し、平年に比べ気温の高い日が多かった。なお、近畿地方は8日頃梅雨入り(平年6月6日、昨年6月11日)した。
- 7月：梅雨前線が西日本付近に停滞することが多く、半ばすぎには前線活動の状態がしばらく続き、県内で大雨となる日があった。なお、27日頃、近畿地方は梅雨明け(平年7月19日頃、昨年7月18日頃)した。
- 8月：太平洋高気圧に覆われて、平年に比べ晴れて気温の高い日が多く、記録的な暑さとなった。
- 9月：中旬は秋雨前線や台風第13号などの影響で、曇りや雨の日が多くなったが、その他は高気圧に覆われて平年に比べ晴れる日が多くなった。
- 10月：初めは秋雨前線などの影響で天気がかくづつしたが、中頃を中心に高気圧に覆われて平年に比べ晴れて気温の高い日が多かった。
- 11月：初めは晴れる日が多かったが、中頃からは低気圧や前線などの影響で曇りや雨の日が多くなった。初めと終わり頃を中心に、平年に比べ気温の高い日が多かった。なお、7日に近畿地方で「木枯らし1号」(昨年より28日早い)を観測し、8日には奈良で初霜(平年より1日早い、昨年より8日早い)を観測した。
- 12月：上旬の前半と下旬の終わり頃は一時的に寒気が流入し、冬型の気圧配置が強まったが、その他は低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多くなった。なお、奈良で3日初氷(平年より10日遅い、昨年より16日遅い)を観測し、29日には初雪(平年より10日遅い、昨年より24日遅い)を観測した。



資料：奈良地方気象台「奈良県の気象」

